

## 体育・保健体育委員会

### 1. 研究テーマ

「すべての子どもたちが自ら運動の楽しさを味わい、運動への関わりを深めていく  
指導のあり方」 ～体力の向上をめざしながら～

### 2. 研究課題

- ・ 運動種目について、一人ひとりの経験や感じ方について、事前調査し、子どもたちの立場で見返す。(スポーツテストの結果をもとに子ども達の体力・運動能力を見直し、全校体育や体育の学習の内容を改善する。)
- ・ 年間指導計画の見直し(小中の連携を図る)
- ・ 個人差を認め、だれもが楽しめる運動にするためのルールや用具の工夫、教材化をする。
- ・ 仲間との関わりが運動の楽しさをさらに深めるという立場に立ち、カリキュラムに位置づける。

### 3. 指導の実際

授業校 旭ヶ丘小学校 1年愛組 授業者 平林 徹教諭

旭ヶ丘小学校1年愛組の実態は

- ・ 意欲的な子どももいる、運動そのもの、学習の準備を面倒くさがる子がいる
- ・ 自分のできない技や、新しい技にはとても興味がある
- ・ 体力テストの結果から、個人差はあるが、全体的に体力が全国平均を下回っている

そこで、

だれもが夢中になるような場作り、新しいこと、できそうなことにチャレンジしていくための場作りや声かけをすれば、子ども達が意欲的に活動するだろう

と考え、

単元名「忍者になろう」において

体育館に以下の六つの場が準備された

川飛び越し(跳躍力)

龍神池(リズム感、跳躍力)

林の中を駆け抜ける(瞬発力)

崖からジャンプ(ジャンプ力、腕力、脚力)

ハードルくぐり(敏捷性)

肋木渡り(腕力、腕と足の協調)

当初、これら六つの場をリレー形式で挑戦させ、競争しながら、意欲的に運動に取り組みせたいと考えた。しかし、一つ一つの動きをしっかりとやらせるには、ただ速ければよいという形になりがちになるリレーは好ましくないという考えが出された。

実際の授業では、工夫のある動きをしている子や、より高い所から飛び降りることに挑

戦している子を紹介することにより、子ども達は一つ一つの場をきちんとやりながらすべての場に挑戦して一周回るやり方で実施された。自分にあったやり方で運動できていたり、少しだけ難しいやり方に挑戦したりする姿が見られた。

一年生の子ども達が額に汗しながら、一時間集中して運動を続け、授業の最後には平林先生から免許皆伝の巻物が子ども達に渡された。楽しく学習しながら体力もきちんと身につける、参加者にとって大変参考になる実践だった。

#### 4. この事例から明らかになったこと

- ・ 学校の実態をつかむことからスタートして単元を組み、「体力を向上させる」という明確な目標をもって、体育の授業をデザインしたことは、学校の特色あるカリキュラムを作成する上で意義深い。
- ・ 子ども達が遊んだり、運動したりする環境は良くなっているとは言い難く、子ども達の体力・運動能力を向上させるうえで、学校での体育の授業の果たす役割はますます増大している。
- ・ 体育の学習がきっかけとなり、子ども達が意欲的に運動に取り組むことは十分期待できる。
- ・ 運動に取り組む場を日常的に提供していくことが学校に求められている。

#### 5. 来年度への課題

意欲的に活動することは達成できているが、一つ一つの動きの意味、技能の分析など体育科として、教材研究をさらに深めていく必要がある。

小学校と中学校の年間カリキュラムを検討することも今年度の課題にあったが、十分に検討するには至らず、10月12日を迎えた。今後、小学校から中学ひいては高校までの12年間を見通して、カリキュラムが適正であるかどうか、再検討することも視野に入れ、さらに研究を進めていく必要がある。

(体育・保健体育委員長 大澤 博光)